

屋久島で墜落から8日目でやっと全世界飛行停止 沖縄県の申入れ無視

11月29日鹿児島県の屋久島沖でオスプレイが墜落しました。爆発音が出てプロペラが吹っ飛んだことが目撃されています。そのあと全員の死亡がわ

かりました。

日常的にオスプレイが飛び交う沖縄では玉城知事が「飛行停止」を申し入れましたが、米軍は『沖縄にその権利はない』とばかりに申し入れを無視。結果的には12月7日世界中で飛行停止を決めた一環として飛行停止としました。

今回墜落したオスプレイは横田基地に所属、山口の岩国基地経由で沖縄の嘉手納基地に向かっていたとのこと、焼津上空で目撃されています。

「何で？何で？」釣りの最中、目の当たりにしたオスプレイ爆発の瞬間 プロペラとともに吹っ飛んだ屋久島の日常

2023年12月1日 12時00分

1 / 7 次の写真 →



漁船が回収したオスプレイのものと思われる残骸を指さす林岳信さん。残骸からは油のにおいが漂っていた=11月30日、鹿児島県屋久島町の安房港で

オスプレイ 全世界で停止

米軍、安全性確保が焦点

【ワシントン29日電】米軍のオスプレイが鹿児島県の屋久島沖で墜落した。米軍は29日、オスプレイの全世界での飛行を一時停止した。オスプレイは、米軍の輸送機として、世界各地で運用されている。今回の墜落は、オスプレイの安全性に疑問を投げかけた。米軍は、オスプレイの安全性を確保するために、全世界での飛行を一時停止した。オスプレイの運用は、米軍の重要な任務の一つである。今回の墜落は、オスプレイの運用に重大な影響を及ぼした。米軍は、オスプレイの運用を再開するまでに、安全性を確保する必要がある。オスプレイの運用は、米軍の重要な任務の一つである。今回の墜落は、オスプレイの運用に重大な影響を及ぼした。米軍は、オスプレイの運用を再開するまでに、安全性を確保する必要がある。

オスプレイをめぐる主な動き

- 2012年10月 米軍普天間基地にMV22の配備を開始
- 16年12月 米軍普天間基地配備のMV22が名護市の海岸に墜落
- 17年8月 オーストラリア沖でMV22が墜落。3人死亡
- 18年4月 米軍横田基地に空軍のCV22が到着。正式配備は10月
- 20年7月 陸上自衛隊木更津駐屯地でV22の暫定配備を開始
- 22年3月 ノルウェーでMV22が墜落。4人死亡
- 6月 米カリフォルニア州でMV22が墜落事故。5人死亡
- 23年8月 オーストラリア北部でMV22が墜落。3人死亡

欠陥は昔から常識

オスプレイの構造的な欠陥は昔から言われてきましたし、それは多くの墜落事故によっても明らかにされてきました。昨年3月のノルウェーでの墜落事故ではクラッチが故障すると報告されました。しかし、今回の屋久島沖はまた違う事故でした。

買うなオスプレイ

「イスラエルでさえ買わない」といわれるオスプレイを買っているのは世界で日本だけ。

バイデンに言われて約束した兵器の爆買い、ポンコツはオスプレイだけでなく、トマホークやイージスアショアもそうです。ここは「増税メガネ」も胸を張ってキャンセルできる時です。

(12月10日・語る会 望月)

自衛隊馬毛島基地建設の現状(その2)

和田香穂里（前西之表市議）

市議会では

馬毛島計画が表面化して以来、反対派議員が圧倒的多数で何度も反対の意見書を可決してきた西之表市議会は、21年の改選で反対派と賛成派が同数となった（当選時「中立」1名は2回目の議会で「賛成」表明）上に、2年後は賛成派から議長を出すとの「密約」で、全会一致で反対派から議長が選出された。その結果議決数では賛成派が多数派となり、西之表市議会史上初の「賛成決議」が可決され、あまりにも重い1票の差で、賛成派に牛耳られた2年間が過ぎた。そして今年23年の3月議会で「密約」は破られ、賛成派は議長を出さず、止む無く反対派の議長が続投となっている。賛成派のやり方は卑劣だが、そうなることを予想できずに口車に乗った反対派議員7名の責任は重い。

議会としては賛否の立場を超えて、基地建設に関連して現在島内市内で噴出している様々な問題に対しては、市民生活への影響を最小限にとどめるように、市や国に早急な対応を求めるといえるが、自らが招いた事態でもあるという自覚は、賛成派反対派どちらにも見られない。議会の動きは市民にも見えていないのが実情である。

市民の声に出せない思いと反対運動

2017年の市長選市議選では7割が反対派に投票し、2011年頃から続けてきた反対署名数も島民の8割近くに上り、民意は「反対」だった。しかし前回2021年の選挙で賛否は拮抗し、市長選は反対派が、議員選は賛成派が得票数で上回る結果となった。

心情的には反対でも「どうせできるなら恩恵を」の便乗派、心情的には反対だが「国の事業

に反対しても無駄」という諦め派、「自分の生活には直接関係ない」という無関心派がそれぞれ増えているように思える。また優良な就職先として自衛隊に若者を送ってきた地元には自衛隊関係者が多く、米軍はゴメンだが自衛隊基地ならいいという空気があったことに加えて、最近では馬毛島のことを口にするのが憚られるという雰囲気が強くなっているのも確かだ。

それでも市街地のスーパー前でスタンディングをしていると、手を振ったり会釈してくれる人はまだまだいるし、「本当に腹の立つことばかり」「頑張って」など声を掛けてくれる人、中には飲物を差し入れてくれる人もいる。基地建設に反対する思いは消えたわけではない。

反対運動の中心を担ってきた「馬毛島への米軍施設に反対する市民・団体連絡会」（以下連絡会）は、これまで署名、学習会、集会、デモ、スタンディングなどを行ってきたが、今年度に入って目立った活動をしてきていない（先日私たち夫婦がスタンディングしていたら、宿舎建設の作業員から「種子島には反対している人はいないと思っていた」と声を掛けられた）。先日開かれた全体会議では、基地建設工事に伴う市民の苦痛を具体的に明らかにすること、国会議員と連携して防衛省などへのヒアリングを行うこと、基地建設中止を求める新しい署名を始めることなどが議論され、有志で取り組む「八板俊輔西之表市長に対する再度の監査請求」についても応援すると決まったという。

しかし例えば、米軍 FCLP 反対一本という姿勢は継続するのか、自衛隊基地建設に反対している他の島々との連帯連携をどうするのか、反 FCLP 以外の反戦平和の活動や種子島での自衛隊訓練反対には取り組まないのか、日常的に「見える」活動として今後は毎月2回定期的に



軍事基地化に反対する人々

スタンディングを行うと決めたというが他にできることは無いのか、などなど積み残している（と私が考えている）課題は多い。

馬毛島基地建設も、南の島々を中心に進む軍事拡大も、まさに日米の戦争拠点作りである。各地では命と暮らしを守るために、基地整備やミサイル配備に反対する仲間が闘い続けている。これらの闘いに連帯・呼応していくこと、全国に馬毛島・種子島の状況を発信していくこと、何より、種子島の島民にしっかりと訴えていくことなどなど、するべきことはいくらでも

ある。基地建設を止める特別な策などは残念ながら何処にもないが、できることは何でもやるという気概を失ってはならない。

まとめ

島外県外の皆さんには、自衛隊馬毛島基地建設と米軍 FCLP 移転に反対する声を全国から上げて、世論を作っていただきたい。もちろん併せて琉球弧で進む自衛隊配備やミサイル配備に対しても同じように声を上げていただきたい。むしろ大きな一つの問題として、各地で取り上げていただきたい。すでにそうした動きが出てきて、ありがたく励みにも力にもなっている。戦争の足音が南の島々では確かに聞こえているが、小さな声だからとあきらめずに、声を上げ続けることが戦争を止める力になると信じている。

最近、直接行動（座り込み、集会、デモ、、、）に対して「怖い」「ついていけない」という話が聞こえてきて気になっている。已むに已まれぬ抵抗や抗議の行動には連帯を！主権者の当然の権利行使を手放すな！と訴え、拙稿の締めくくりとしたい。

11月23日・沖縄県民集会∞国会前行動・馬毛島からのアピール

今の国は戦争へと突き進んでいます。その先頭に押し出されているのが沖縄や九州の島々、琉球弧です。宮古、石垣、与那国、奄美などの島々ではミサイル配備や自衛隊基地機能の増強など、防衛力や抑止力を越えた対処能力の拡大と、文字通りの最前線が想定されています。シェルターなどと横文字で誤魔化しつつ防空壕を作るだの、実現不可能な住民の避難計画だの、まじめな顔で語られているのです。また大掛かりな自衛隊演習や日米合同演習で、戦車が公道を走ったり、民間空港で戦闘機が訓練するなど、戦時と見まがう光景が日常の中に入り込んできています。私の住む種子島では自衛隊馬毛島基地の建設が異例の突貫工事で進められています。馬毛島はこれまで軍事施設が無かった無人島を丸ごと基地にして、日常は戦闘機のタッチアンドゴーなど戦争のための訓練が行われ、米軍の空母艦載機の離着陸訓練 FCLP に使われます。そして戦争となれば、武器・弾薬・人員・物資などを集めて戦闘地域に展開する集積拠点として、戦争を続けるための継戦能力を担われるのです。戦争は二度としないと明記した憲法を持ちながら、私たちの国は再びの道を進もうとしている、その大きな危機感をまず訴えます。

そしてこれらの戦争準備は、地元の反対の声を聴かず、不安や疑問に答えることも無く、強引かつ性急に進められてきました。選挙や住民投票や署名活動で示された民意はことごとく無視・無力

化され、「防衛」や「特殊な事情」を盾に説明も行われぬ、これは住民に対してだけではなく、自治体に対しても同じです。首長や議会が反対しようが賛成だろうが関係ありません。こうして自治体のものが踏みじられ壊された先には、「お上のすることには逆らっても無駄、黙って従っていけばいい」という、かつての戦争を支えた見えない土台ができあがってしまうのです。いずれ「戦争反対」という言葉すら口にできなくなるでしょう。

ちなみに今種子島では、基地建設による様々な混乱が起きています。最大 6000 人と言われる作業関係者が馬毛島だけでなく種子島に住むことになる、ホテルは満杯、家賃は高騰、農林業から馬毛島関連に人が流れ、漁業者は漁に出ないで作業員の送迎、街にはコンテナハウスが立ち並び、ゴミは溢れ交通量は増え、帰省や観光客は宿が取れず、転入希望者は住まいが見つからず、店からは地場産の魚が姿を消し、基地完成後にはおそらく田畑や山林は荒れ放題になるでしょう。このような混乱はこれまでも宮古でも石垣でも繰り返されてきました。自治体だけではなく地域の暮らしそのものが破壊されているのです。

さらにこの戦争準備には巨額の税金が投じられているのに、国会で取り上げられることがほとんどありません。たとえば馬毛島基地に関しては、その工事は随意契約のオンパレードで、予算は天井知らずと言われても、国会の審議を経ていないので、予算根拠は闇の中です。防衛費が巨大化していく半面、福祉・教育・医療をはじめ、私たちの暮らしは目に見えて苦しく貧しくなっているのに、一方で例えば米軍再編交付金などの基地関連交付金が小中学校の給食費や、18歳までの医療費の無償化に使われている。こんな無茶苦茶な税金の使われ方は民主主義の崩壊でしかありません。

戦争準備と、地域の暮らしや自治の破壊と、民主主義の崩壊、それら全てが怖ろしい勢いで進んでいる南の島々に暮らす私たちは、すでに戦前を迎えているという危機感に居ても立っても居られずにいます。この国会前で、声を張り上げ、拳を突き上げ、政治の中心だけでなく都市部の人々にも訴えるために、南の島々からの思いを届けます。この思いも行動も、決して「争い」や「負のエネルギー」なんかではありません。理不尽な政治への怒りと、人としての尊厳と、未来への責任と、大切なふるさとや大切な人たちへの愛を背負っての「熱い闘い」だということを、ここに集まった皆さんと共有できれば嬉しいです。共に闘いましょう！

和田香穂里(前西之表市議)



11. 23 の国会前集会

「清水三保の化学工場のPFAS汚染問題」

富田英司（静岡沖縄を語る会・共同代表）

★中日新聞のスクープにビックリ

10月4日（水）地元の中日新聞が突如として「清水区の米国系工場従業員／血液から高濃度PFAS／08～10年指標の最大418倍」という見出しで報道する。

「発がん性が疑われる有機フッ素化合物（PFAS）をかつて使用していた静岡市清水区三保の工場で2008～10年の間、1部の従業員の血液から健康リスクに関する米国の学術機関の指標値の最大418倍に上るPFASが検出されたことが、工場の運営会社に出資していた米デュボン社側から米環境保護局（EPA）に送られた文書からわかった」と書いている。

さらに「この文書は、PFASを巡る米国での訴訟を通じて同国のロバート・ピロット弁護士がデュボン社側から入手した」と。このロバート・ピロット弁護士とはアメリカのPFAS汚染会社と20年間も闘った弁護士で、アメリカ映画「ダーク・ウォーターズ」の原作本「毒の水」を書いた人物である。



清水区にある三井・ケマーズフロロダクツ(株)

★「元従業員の証言」・・・素手で扱っていた

中日新聞のスクープに驚いた他の新聞社もその後独自取材を開始した。

その中で、静岡新聞の「元従業員が証言『PFAS素手で扱った』との記事を紹介する。



三井・ケマーズ清水工場の概観

「化学工場元従業員の男性（76）によると、高卒後勤務していたのは現在の三井・ケマーズフロロプロダクツ清水工場。男性によると1965年～77年の約12年間、ビニール手袋を付けず、素手でステンレス製のスコップを握りPFASを『素手で扱っていた』と証言。男性は2年ほど前に舌がんと診断され闘病中だが原因は不明。一方、工場を当時運営していた会社は1980年代初頭に、出資する米国の法人から安全性についての健康上の懸念を指摘されていたことが新たに分かった」従業員男性は「現在まで会社から危険性は告げられていない」と話す。しかし、米国でPFASの健康被害を

追究してきたロバート・ピロット弁護士によると、米政府から入手したデュボン社の文書では、2008～10年に清水工場の従業員24人に対して血液検査が行われ、米国で健康リスクがあるとされる指標の3～418倍となる、血漿（けっしょう）1ミリリットル当たりPFOAを69～8370ナノグラムを検出したと言う。

★ロバート・ピロット弁護士からの提供内容

ピロット弁護士は約30年前の1981年9月15日デュボン社側から三井フロロケミカル清水工場（当時の会社）の工場長に宛てた文書を静岡新聞社に提供した。

同文書によると、PFOAを口から吸いよう要請していたことが明らかになった。

発がん性が疑われる有機フッ素化合物（PFAS）を使用していた静岡市清水区三保の化学工場従業員の血液から高濃度のPFASが検出された問題で、敷地外の側溝か

込んだネズミの先天性欠損が見つかったため、デュボン社が米国で全ての妊婦をPFOAの暴露の可能性がある仕事から外したとして同工場に健康上の懸念を指摘し、12検体ほどの従業員の血液を米国に送るよ

らも2002年、現在の国の目標値を上回るPFASが検出されていたことも分かった。

★水質検査と徹底した健康診断が必要

現在、静岡市は素早く工場周辺や住民の井戸水の水質検査を実施してそのつど数値を発表している。しかし最大の課題は従業員や周辺住民の健康診断である。現在の従業員だけではなく、過去清水工場に勤務し

た全社員を対象にすること。また周辺住民に対しても健康診断を実施すべきだ。なお、このPFASの健康診断の検査料は高額だと聞くので、その検査料の補助も検討すべき課題である。



会社前を流れる側溝

追悼 2008年 沖縄を語る会発足をよびかけた「きじゅんさん」



元参議院議員で社会民主党静岡県連合顧問の櫻井規順氏が、去る11月21日、88歳で逝去されました。葬儀は、生前の故人の遺志により、身内のみにて済まされています。

櫻井さんは、静岡・沖縄を語る会会員で、会の発足時より御尽力いただき大変感謝致しております。謹んで心より御冥福をお祈り申し上げます。
2023年12月

櫻井規順 本名(のりよし)

略歴 1935年、静岡県富士市に生まれる。1944年8月、家族5人で「満州開拓団」中国東北部(旧満州)清原に入植。中国で敗戦を迎え、1946年、姉と帰国、静岡市に移住。1964年に日本社会党静岡県本部書記、書記次長を経て副委員長を務める。1989年参議院選挙で当選。2006年から2012年まで3期6年社民党静岡県連合代表を務める。一方、静岡県中国残留孤児を励ます会代表、満蒙開拓団や満蒙開拓青少年義勇軍の関係者らで組織する静岡県拓魂奉賛会の会長も務めるなど追悼活動に尽力した。著書に『静岡県と「満蒙開拓団」』(静岡新聞社)2012年他。

☆☆☆・・・情報 あら かると・・・☆☆☆☆☆☆・・・情報 あら かると・・・☆☆☆☆

情報館だより

★年末年始の休館★

年内は12月28日(木)まで。
来年は1月5日(金)から

情報館の場所 新静岡駅の改札を出て
5分。信号を渡るとすぐ目の前。

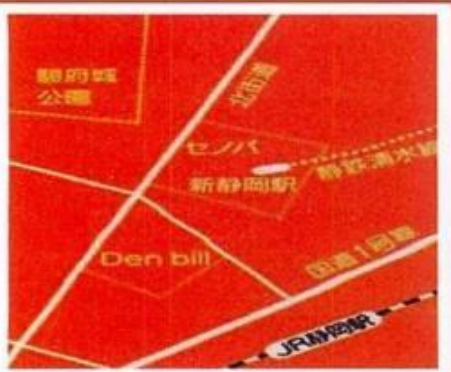
沖縄を再び
戦場には
させない!



Peace for Ukraine!
ウクライナに平和を!

Peace for Palestine!
パレスチナに平和を!

PEACE FOR
UKRAINE
ウクライナに平和を



編集後記 ロシアのウクライナ侵攻が終わらない中、ガザの激しい戦禍で住民の犠牲が増大している現実には戦慄が走ります。世界は、私たちは、どうしたら止められるのか? 沖縄の島々にはミサイル基地や弾薬庫が作られ、いつでも「戦争する」準備ができています? 相変わらずメディアは伝えないまま。オスプレイの生産終了は当然だが、これ以上欠陥品は要らない、中古のトマホークも。島々のくらしは一変し、戦時下を思わせる迷彩服や行軍の訓練が日常の光景だなんて、政治の劣化でしかない! 怒! (Y)